

仔緬山羊のせり市について

日常生活における重要資源としての緬羊、山羊も終戦と契機に急激に増殖が見られ、現在緬羊約1万頭、山羊約2万頭に及び、仔畜の生産並びに県外よりの導入により今後益々発達するものと思われる。

羊毛乃至山羊乳の自家利用を目的として汎く農家に飼育されているが、今後は肉資源としての肥育効果を併せ考慮して行くことがより一層経済性を高めて行くことは論を俟たない。生産仔畜にしても、肉畜にしても経済動物である以上円滑なる消費流通がその要件であり県下においても過搬津山、総社、笠岡、の枢要生産地帯においてせり売市場を開設され、出場頭数も、緬羊では津山69頭、総社54頭、笠岡171頭、山羊は津山30頭、総社101頭、笠岡4頭で天候不順の故もあって、予定頭数の出場がなかったが、県内各地よりの購買客が殺到し盛況を極めた。価格は山羊は比較的好況であり、最高雌9,000円、雄13,000円、緬羊最高雌5,100円、雄4,700円で高級品の割高に比し中、下級品の割安であったのは見逃せない。購買者は畜連の委託購買や単協、家畜商等多数であり、購買側も品不足のため、再せりを要求される声もあり売買率食般を通じ85%程度であった。

今回のせり市場の開設状況を観察した結果を反省し私見を述べると、

第一に飼養管理並に育成技術の拙劣の故か一般に発育が悪く、栄養の充分でないものがあるため市場価値が減殺され、又正状発育にも拘らず晩期生産のものが早期生産のものに比し体格が小さいため格安に取引されたように思われた。従って今後は可級的早期生産とするか、開市期日を遅くするか、所謂「売ごろ」までに成長せしめて販売する方が一層有利であると思われる。

第二には自己所有の緬、山羊の価値並価格に自信がなく、せり場に望んで無条件に販売され又一度本人取りとしておき、市況の推移を見て再せりに持込んで販売したものが相当数あった。

第三には購買客の取扱い、便宜等は更に一層留意して和やかな雰囲気の中に終始する必要があるろう。

第四にはせり売市場の秩序の維持特にせり場への

家畜の出し入れの円滑を期するよう相互に留意して購買客の不信を齎さないように努めたい。

第五にはせり順序の統制を図り銘柄別に区分し（例えば、雄、雌、肉畜）又生年月日を明らかにして、生年月日順に名簿を実施すること。

以上具見を述べたが農家の皆さんに特にお願いしたいことは、第一に述べた仔緬、山羊の育成技術、飼養管理の改善の必要性が見られこれら拙劣による経済的価値が著しく低減されている様に思われたので重ねて要望いたしたい。

（渡辺 滋 技師）